

## 高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目(平成30年度)【6-1】

項目名	課題	対策	
1 死因究明及び身元確認に係る業務に従事する警察等の職員、医師、歯科医師等の人材の育成及び資質の向上について	死因究明等の精度を高めるためには、警察等の捜査機関による検視、医師による検案、歯科医師の歯科所見による身元確認、死亡時画像診断(死後画像の撮影・読影)等に従事する人材の育成及び資質(正確性)の向上を図る必要がある。	各機関において、死因究明等に係る業務(検視、検案、解剖、歯牙鑑定、死亡時画像診断等)に従事する人材の育成及び資質向上を目的とした研修会等の取組みを継続的に行う。また、他機関が開催する研修会、複数の機関が合同で開催する研修会等に積極的に参加する。 (県警、海上保安部、医師会、歯科医師会、法医学教室、放射線技師会、県)	
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	①本年度における取組実績(予定を含む)	②取組における課題など(実施できていない理由等)
県警・検察庁	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、捜査員等を対象に、巡回教養や検視専科等を実施し、スキルアップを図っている。</li> <li>・検視専科等では特異事案を参考に授業内容を常に見直し、教養効果を高めるよう努めている。</li> <li>・毎年、全国検視官会議、四国管区検視官会議において特異事案等の事例発表が行われ、他県との情報の共有を図っている。</li> <li>・高知県警察協力医会の研修会を開催して、特異事案の事例紹介等による情報の共有、法医学者の講演等による事例検討を実施し、検視業務の資質向上に努めている。</li> <li>・隔年で、高知県歯科医師会との合同研修会に、日本歯科医師会から講師を招き、法歯学についての知識向上に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捜査員を対象に、5・6月に巡回教養、7月に検視専科を実施、11月に検視講習を実施</li> <li>・検視専科では医師等による専門的教養の他、実践的な特異事案想定訓練を実施</li> <li>・H30年10月の四国管区検視官会議において特異事例発表</li> <li>・H30年12月の全国検視官会議へ出席し、情報共有を図っている</li> <li>・H30年6月に高知県警察協力医会を開催し、高知大学医学部法医学教室の古宮教授による講演を実施</li> <li>・H30年6月に高知県歯科医師会との合同研修会を開催し、日本大学歯学部教授による講演及び模擬訓練を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捜査専科、巡回教養等を通じて捜査員の教養強化に努めているが、勤務状況や事案発生等の状況により受講できない場合があり、実施日を変更する等により対応している</li> </ul>
海上保安部	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第五管区海上保安本部が職員の受け入れについて調整した管内の大学の法医学教室に担当職員を1年間派遣して研修を行っている。</li> <li>・上部機関や高知県警察本部が実施する法医・検視研修に参加し、職員の資質の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年4月の定期異動で、和歌山県立医科大学において1年間法医研修を履修した職員が赴任したことから、同職員を講師として定期的に研修を実施して職員の技能向上を図っている</li> </ul>	
医師会	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・死体検案書の書き方についての講習会を開催し、医師会未加入の若年医師にも参加を呼びかけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検案書の書き方や大規模災害発生時及び在宅での検案の問題を中心に講演会を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の人選や講演回数増加は場所や費用面で制限がある</li> </ul>
歯科医師会	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隔年で、県警との合同研修会に、日本歯科医師会から講師を招いて、法歯学に関する知識向上に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年6月に高知県警と合同で身元確認研修会を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会は隔年開催であり、受講者の偏りもあり、全地区への浸透に疑問がある</li> </ul>
放射線技師会	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aiに関する講習会を開催し、県内の放射線技師に対して死亡時画像診断の知識普及及び資質向上を図った。</li> <li>・同講習会の開催について他機関へも案内を行った。</li> </ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aiに関する講習会を今後も開催し、Ai検査技術の普及と標準化を目指したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H31年1月にAiに関する講習会を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aiに関心がある診療放射線技師が少ない</li> <li>・勤務施設のAi実施不可等の理由から、Ai講習会への参加数が伸びない(H30年9月参加19名)</li> </ul>
法医学教室	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外で開催される法医学関連の学会等に参加することで、各教員の資質向上を図っている。</li> <li>・高知県診療放射線技師会主催のAi講習会に参加した。</li> </ul> <p>〈実施予定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院生に対する法医学的専門教育を行う予定。</li> </ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい法医学的専門知識や技能の習得に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法医学関連の学会に参加・発表し、各教員の資質向上を図った</li> <li>・平成30年度高知県医師会検案業務研修会に出席</li> <li>・大学院生に対し、法医学的専門教育を行った</li> </ul>	
県	<p>〈実施予定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師養成奨学貸付金制度の要件を見直して、県内で勤務する臨床医だけでなく、法医学医にも対象を拡大し、人材確保の支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、制度上は適用可能とした【担当:医師確保・育成支援課】</li> </ul>	

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目(平成30年度)【6-2】

項目名	課題	対策	
2 警察等における死因究明等の実施体制の充実について	警察等における死因究明等の実施体制の充実を図るためには、個々の警察官等の技術向上のみならず、組織全体として体制の整備を行い、検視官の臨場率の更なる向上を図る必要がある。また、薬毒物定性検査への対応など科学捜査機能の充実を図る必要がある。	死因が犯罪行為に起因するものであるかどうかという判断のみならず、自殺や労災事故の予防、感染症の早期発見等、公衆衛生の向上を念頭にした対応に万全を尽くすため、異状死体の取扱業務に従事する警察官や海上保安官に対する検視技能向上を図るとともに、薬毒物定性検査を迅速かつ的確に実施できる科学捜査研究所の体制整備を充実させる。また、人員体制及び科学捜査機能を充実するための取組みを継続的に行う。 (県警、海上保安部)	
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	①本年度における取組実績(予定を含む)	②取組における課題など(実施できていない理由等)
県警・検察庁	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度から暫定的に、検視官4名体制(1名増)となり、西部地区、中央及び中西部地区、東部地区をそれぞれ担当することで、県下各署の検視業務をより一層きめ細かく支援することが可能となった。(来年度より本格運用できるよう検討中)</li> <li>・検視官が臨場できない現場では、電話連絡等によって、現場の詳細な状況を確認している。</li> <li>・薬毒物関係の検査では、インスタントビューによる尿中薬物の簡易検査を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度から検視官4名(1名増)、検視係長4名(1名増)の体制となり、臨場率95%以上を維持している(昨年同時期比で約3%増)</li> <li>・検視官が臨場できない現場では電話連絡等により現場の詳細状況を確認している</li> <li>・インスタントビュー等の検査実施件数は昨年同時期比で135件増加(実施率は17.1%増)</li> <li>・積極的な解剖実施により、昨年同時期比で9体増加(解剖率は1%増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検死官、検視係長を増員するも、夜間における同時間帯での複数事案の発生や、遺体を遺族へ早期に返還する必要性、東西に広い地理的な問題等から、臨場率100%を維持するのは困難</li> </ul>
海上保安部	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第五管区海上保安本部が職員の受け入れについて調整した管内の大学の法医学教室に担当職員を1年間派遣して研修を行っている。</li> <li>・上部機関や高知県警察本部が実施する法医・検視研修に参加し、職員の資質の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年4月の定期異動で、和歌山県立医科大学において1年間法医研修を履修した職員が赴任したことから、同職員を講師として定期的に研修を実施して職員の技能向上を図っている</li> <li>・H30年7月、11月に実施した高知県警の検視講習に参加</li> </ul>	
医師会			
歯科医師会			
放射線技師会			
法医学教室			
県			

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目(平成30年度)【6-3】

項目名	課題	対策
3 死体の検案及び解剖の実施体制の充実等について	<p>高齢者人口の増加に伴う高齢者の孤独死など、異状死体の取扱数の増加が予想されることから、次の取組みを進める必要がある。</p> <p>①検案に従事する医師の確保 ②法医学を専門とする医師の確保及び大学医学部法医学教室の体制充実 ③在宅医療の普及に伴って在宅での看取りが今後増えることが予想される中、終末期患者の最期において、主治医による死亡診断が叶わない場合の救急搬送や、警察等の捜査機関による検視、主治医以外による検案等が散見されている。そのため、主治医が患者の死亡に立ち会えない場合の対応について、医師をはじめとする医療従事者と患者・家族との十分な話し合いとともに、関係機関で連携を図る必要がある。</p>	<p>①死体検案に従事する医師の継続的な確保に努める。(医師会、県警、海上保安部) ②高知大学医学部法医学教室は、県内で唯一の法医解剖の実施機関であり、法医学教育・研究の拠点でもある。同機関の機能充実と長期的な人材確保に努める。(法医学教室) ③在宅での看取りに円滑に対処するには、適切な看取りの仕組み作りが必要になるため、関係機関との連携・協力のあり方等について検討する。(医師会、県警、県)</p>
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	<p>①本年度における取組実績(予定を含む)</p> <p>②取組における課題など(実施できていない理由等)</p>
県警・検察庁	<p>① 〈実施中〉 ・毎年、高知県警察協力医会の研修会を開催し、同会を通じて参加医師に呼びかけを行うなどして検案医の確保に努めている。</p> <p>③ 〈その他〉 ・終末期患者の在宅医療に関し、死亡時対応のガイドライン策定等について、医師会、県警、関係行政機関が検討する必要がある。</p>	<p>① ・検案医の確保について、高知県警察協力医会等を通じて呼びかけを行い、警察協力医会員が1名増となった ・警察協力医会会員以外の医療機関へも、遺体の持ち込み検案を行っている</p> <p>③ ・明らかな在宅終末期患者の自然死に対し、捜査機関の調査が行われないうよう、関係機関の連携をより密にする必要がある</p>
海上保安部	<p>① 〈実施予定〉 ・医師会及び高知県警察本部と連携し、検案医の確保に努める。</p>	<p>① ・医師会、歯科医師会の会合に参加し、高知県警察本部と連携して所属医師等との意見交換を図った</p>
医師会	<p>① 〈実施中〉 ・日本医師会の「警察活動に協力する医師の会」に参加し、県内での死体検案に関する知識普及等に努めている。</p> <p>〈その他〉 ・死体検案の実務経験を積むために、検案実績が多い施設での見学等について模索中。</p> <p>③ 〈その他〉 ・看取りの際の患者と家族との意思疎通を図ることが大切である。</p>	<p>① ・研修会の実施及び案内は県医師会ホームページで周知を行っている ・検案の見学等は検討中</p> <p>① ・検案医から現場の声を聞ける機会を設ける必要がある</p> <p>③ ・看取りの際の医師や看護師の対応の問題点などを把握するための調査が必要</p>
歯科医師会		
放射線技師会		
法医学教室	<p>② 〈実施中〉 ・解剖中および解剖後に実施される諸種の法医学的検査の更なる充実・改善を行っている。 ・法医を志す研修医や医学生の相談に適切に対応している。</p> <p>〈実施予定〉 ・検案・解剖実施体制の更なる充実を図る。</p> <p>〈その他〉 ・次世代を担う法医の人材を確保し育成する。</p>	<p>② ・音声認識ソフトの導入により解剖所見記録の効率化および正確性の向上を図った</p>
県	<p>③ 〈実施予定〉 ・在宅医療における看取りに関する課題の対策として、関連情報の提供を行うとともに、居宅で最後を迎えた患者に対するその後の対応について、かかりつけ医、訪問看護師、病院、介護施設、ケアマネージャー、消防機関など多様な立場の関係者の共通理解と役割分担に取り組む。【第7期高知県保健医療計画(H30-35年度)】 (所管部署:高知県健康政策部医療政策課)</p>	<p>③ ・国の動向を注視しながら、県内でも人生の最終段階における医療のあり方の普及啓発の一環として、患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会を平成31年度開催予定【担当:医療政策課】</p>

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目（平成30年度）【6-4】

項目名	課題	対策	
4 薬物及び毒物に係る検査、死亡時画像診断(Ai)その他死因究明のための科学的な調査の活用について	<p>①危険ドラッグなど様々な薬毒物が関連した異状死体が報告されている中、犯罪行為の解明や公衆衛生の向上につなげるため、薬毒物の正確な分析への対応が必要である。</p> <p>②死亡時画像診断(Ai)は捜査機関での活用が進んでいるが、外部依頼に対応可能なAi実施機関の偏在や、実施方法の標準化や専門知識を有する従事者が少ない現状がある。</p>	<p>①警察等では科学捜査体制・機能の充実を図るとともに、解剖実施機関である大学医学部法医学教室では、迅速かつ精度の高い薬毒物分析が行えるよう検査機器等の充実に努める。(県警、法医学教室)</p> <p>②死亡時画像診断(Ai)実施機関の普及を図るとともに、Aiの適切な利用を進めるため、検査技術の標準化(撮影方法、結果の報告等)やAi読影医の確保及び読影能力の向上に努める。(医師会、放射線技師会、県警、法医学教室)</p>	
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	①本年度における取組実績(予定を含む)	②取組における課題など(実施できていない理由等)
県警・検察庁	<p>① 〈実施中〉 ・設備面では鑑定室等の増設を計画している。 ・高知大学法医学教室との連携を図っている。 ・簡易検査キットを用いた予試験の徹底を図るほか、科学捜査研究所による鑑定を実施している。 〈実施予定〉 ・簡易検査キットの予算要求を行う。 ・必要な定性検査が確実に実施されるように、高知大学法医学教室と連携を図っていく。 ・医師会との連携を検討する。</p> <p>② 〈実施中〉 ・Ai実施率は平成29年中は59.6%で年々増加しており、有効利用できている。</p>	<p>① ・科学捜査研究所による鑑定を実施し、迅速な結果回答を行う ・簡易薬物検査(インスタントビュー)、青酸化合物簡易検査(シアンチェッカー)を実施している</p> <p>② ・Aiの実施件数は昨年同時期比で63件増加(実施率は同時期比で8.9%増)</p>	<p>① ・将来的に鑑定室を増設予定があるが、予算確保や設置場所の問題等がある</p>
海上保安部			
医師会	<p>② 〈その他〉 ・日本医師会でAiの活用方法等について検討が進められている。</p>	<p>② ・日本医師会ではAi講習会を年に1回程度開催しており、県内からも参加している ・高知CT研究会においてAiに関する特別講演を開催(H30年6月高知県放射線医会共催)</p>	<p>・Ai画像の読影機会を増やす必要がある ・Aiと検案の両方に知識のある講師が少なく、十分なAi所見を活用できない</p>
歯科医師会			
放射線技師会	<p>② 〈実施中〉 ・Ai講習会によりAiに対する関心を高めたり、Ai実施施設を増やすための広報活動を行った。 〈実施予定〉 ・Ai検査技術の標準化を目指したい。</p>	<p>② ・Aiの適切な利用を進めるための広報活動を継続して行う ・Ai講習会を開催し、Ai検査技術の標準化を進めたい</p>	<p>② ・Aiの外部依頼に関しては、各施設個々の事情がある</p>
法医学教室	<p>① 〈実施中〉 ・ガスクロマトグラフ・質量分析計(GC-MS)を用いた迅速かつ精度の高い薬毒物分析法を開発している。 〈実施予定〉 ・液体クロマトグラフ・質量分析計(LC-MS)の導入。 〈その他〉 ・検査できる薬毒物の対象範囲を拡大する。</p> <p>② 〈実施中〉 ・解剖前後にAi画像を参考にしている。 〈実施予定〉 ・Ai画像所見と解剖所見との比較検討。 〈その他〉 ・Ai有効利用の推進。</p>	<p>① ・液体クロマトグラフ・質量分析計(LC-MS)の導入予定</p> <p>② ・解剖時にAi画像を参考にしている ・Ai画像所見と解剖所見を比較検討を行っている</p>	
県			

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目(平成30年度)【6-5】

項目名	課題	対策	
5 大規模災害発生時等の身元確認及び死体検案作業への対応について	南海トラフ巨大地震等の大規模災害発生時において大量の遺体が発生した場合、身元確認及び死体検案作業が困難を極めることが予想されるため、有事の際、それらの作業を円滑に実施できるよう訓練等によって有事に備える必要がある。	①身元確認に従事する歯科医師の確保及び歯科診療情報の標準化(全国共通の統一デンタルチャート導入)と同情報のデータベース構築等について検討する。(歯科医師会) ②大規模災害発生時において身元確認及び死体検案作業が適切に実施できるよう、日頃から関係機関の連携を図るとともに、平素から有事に備えるために、関連する訓練等への積極的な参加により、当該技能の向上に努める。(県警、海上保安部、医師会、歯科医師会、法医学教室、放射線技師会、県)	
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	①本年度における取組実績(予定を含む)	②取組における課題など(実施できていない理由等)
県警・検察庁	② 〈実施中〉 ・毎年、「高知県警察・高知県歯科医師会連絡協議会」を開催して協力関係を構築し、発災時における歯科医師の協力確保に備えている。 ・「高知県警察・高知県歯科医師会連絡協議会」において、情報のデータベース構築を検討中。 ・毎年、災害警備訓練・検視専科等において身元確認作業及び死体検案作業の研修等を行い、関係機関にも同研修へ参加を募り、連携を図るとともに当該技能向上に努めている。 〈実施予定〉 ・発災時における多数死体の身元確認等を円滑に実施するために、鑑定室等の増設を計画している。	② ・H30年6月に高知県歯科医師会と合同研修会を実施(日本大学歯学部教授による講演、模擬訓練を実施) ・H30年9月に宿毛市開催の災害警備訓練に参加 ・発災時の検案作業が円滑に実施できるよう、光源や水の確保のための各備品を購入予定	・検案場所の確保(各署において2か所以上選定しているが、一時避難場所との重複が想定されるため複数箇所の確保が必要) ・検案場所の条件の見直しが必要(水の確保等)。
海上保安部	② 〈実施中〉 ・医師会及び高知県警察本部が実施する各種訓練に参加するとともに、関係機関と緊密に連携し有事に備えている。 〈実施予定〉 ・歯科医師会及び高知県警察本部と連携し、身元確認に係る体制作りを進める。	② ・医師会、歯科医師会の会合に参加し、高知県警察本部と連携して所属医師との意見交換を図った	
医師会	② 〈実施中〉 ・県内各地区で実施される大規模災害発生時の遺体対応訓練等における死体検案作業の実地訓練に参加している。	② ・南国市、香南市、香美市で遺体対応訓練を毎年実施	・多数遺体対応の机上訓練も必要 ・医療救護に時間を要し、検案は人手不足となる
歯科医師会	① 〈実施中〉 ・デンタルチャートは全国で統一化がされている。 ・生前並びに死後記録のデータベース標準化は、日本歯科医師会において、現在、2県でモデル事業を実施中。(ここ2、3年のうちに実用可能となる見込みだが、個人情報保護法等の問題があり、国での法制化が必要。) ② 〈実施中〉 ・大規模災害発生時の身元確認作業の効率化を図るため、隔年で県警と訓練を実施している。 ・毎年、県警、海上保安部、自衛隊から参加者を募り、身元確認の講習会を開催している。 〈その他〉 ・最大クラス(L2)の地震・津波に襲われた場合、交通網が分断され長期間孤立する地域ができる。そのため、各地区単位でも身元確認作業がスムーズに行えるよう連携の確保が必要になる。	① ・デンタルチャートに関しては、全国統一が出来ている ・カルテ等の標準化は、モデル県の新潟県、静岡県で終了したが、個人情報保護法の問題があり、全体としては難航している ② ・発災時、各地区の歯科医師会単位で、円滑に身元確認作業が行えるよう準備を進めている	② ・身元確認作業に必要な物資の備蓄をどうするか ・県民全員が被災者という状況下で、如何に人的動員を掛けるか
放射線技師会	② 〈その他〉 ・合同災害訓練等に参加する機会があれば、死体検案作業の一部にAiによる訓練を組み入れることは可能である。	② ・施設によって個別に取り組みしているところはあるが、会として特段の取り組みは無し	② ・可能であれば、合同訓練等に参加し、遺体検案の一環としてAiの訓練を実施したい
法医学教室	② 〈実施中〉 ・大規模災害に関連する研修会や訓練等に積極的に参加するよう努めている。 〈実施予定〉 ・有事対応マニュアルの作成。 ・合同訓練などへの参加。 〈その他〉 ・平素より関係機関との連携を図りながら有事に備える。	② ・高知大学医学部附属病院で実施した災害対応訓練に参加 ・平成30年度高知県警察協力医会総会に参加 ・有事対応マニュアルを作成予定	
県	【参考情報】 ●「高知県地域防災計画(地震及び津波災害対策編・火災及び事故災害対策編)」高知県防災会議(所管部署:県危機管理部危機管理・防災課) ●「高知県広域火葬計画(第一版・H26年6月策定)」の関係資料に「3. 遺体対応マニュアル」と「遺体の取扱いガイドライン」がある。(所管部署:県健康政策部食品・衛生課)		

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目（平成 30 年度）【6-6】

項目名	課題	対策	
6 死因究明により得られた情報の活用及び遺族等に対する説明の促進について	<p>①死因究明により得られた情報を関係機関・団体等で活用することにより、検案する医師の資質向上や死亡時画像診断(Ai)の精度向上を図る必要がある。</p> <p>②死者についての情報を知りたいという遺族の要望に応じるため、医師や警察官等は第三者のプライバシー保護に留意しつつ、丁寧かつ分かりやすい説明を行うことが求められている。</p>	<p>①Aiによって得られた異常所見情報を解剖診断時に活用できる仕組み(事例検討含む)や、解剖所見をAiの読影能力向上に役立てる方策について検討する。(県警、医師会、法医学教室、放射線技師会)</p> <p>また、死因究明及び身元確認業務に従事する関係機関による合同の事例検討研修会の実施について検討する。(県警、海上保安部、医師会、歯科医師会、法医学教室、放射線技師会)</p> <p>②遺族に対して死因等の説明を行う際は、丁寧で分かりやすい説明を心掛ける。また、死亡診断書(死体検案書)を交付する医師は、当該書類が人の死亡に関する厳粛な医学的・法律的証明であることを認識し、死亡者本人の死亡に至るまでの過程を可能な限り詳細に論理的に記載する。(県警、医師会)</p>	
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	<p>①本年度における取組実績(予定を含む)</p> <p>②取組における課題など(実施できていない理由等)</p>	
県警・検察庁	<p>① 〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県警察協力医会の研修会を開催して、特異事案は事例検討等により紹介を行い、情報共有を図っている。</li> <li>・毎年、検視専科や検視講習等を行い、関係機関に対して同専科等への聴講案内をするなどして、特異事案について事例紹介を行っている。</li> <li>・検案医に解剖結果を伝えて、検案技術の向上に役立っている。</li> </ul> <p>② 〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当警察官から遺族に対して調査結果を可能な限り説明している。</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年6月に高知県警察協力医会を開催し、高知大学医学部法医学教室の古宮教授による講演を実施</li> <li>・H30年7月に検視専科を実施、11月に検視講習を実施</li> <li>・検視専科では医師等による専門的教養の他、実践的な特異事案想定訓練を実施</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当警察官から遺族に対して調査結果を可能な限り説明している</li> </ul>	
海上保安部	<p>① 医師会、歯科医師会等が開催する合同研修会等に参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県警察本部と医師会、歯科医師会の各会合に参加し、所属医師等との意見交換を図った</li> </ul>	
医師会	<p>① 〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本医師会などの方針を見てから行動したい。</li> <li>・関係機関による合同の事例検討研修会は、それぞれの機関がよりレベルアップしてから始める方が良いと思う。</li> </ul> <p>②</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・症例検討会開催は検討中</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・症例検討会には、Aiと解剖所見の対比検討のデータ蓄積が必要</li> </ul>
歯科医師会	<p>①</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体との合同研修会は必須のものであるが、まだ、歯科医師会自体がそのレベルになっているかどうか。今後、2～3年でそのようなレベルに引き上げたい。</li> </ul>
放射線技師会	<p>① 〈実施予定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員に対して『Ai認定診療放射線技師』の取得について広報したい。</li> </ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内で関係機関による合同事例検討研修会が開催されれば参加したい。</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ai講習会を継続して開催し、Ai精度向上と読影能力向上に努める</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aiに関心がある診療放射線技師が少ない</li> <li>・所属施設のAi実施不可によりAiの普及に繋がらない</li> </ul>
法医学教室	<p>① 〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ai画像データの蓄積。</li> </ul> <p>〈実施予定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ai画像所見と解剖所見の比較検討。</li> </ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ai画像の利活用を推進する。</li> </ul> <p>② 〈実施予定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関による合同事例研修会で発表すべき適切な症例の候補を検討する。</li> </ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・死因究明で得られた情報の利活用を推進するために、関係機関・団体等で定期的に意見交換を行う。</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aiによって得られた異常所見情報を解剖時に活用している</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度高知県警察協力医会総会後に、Ai画像所見と解剖所見の比較検討について発表した</li> </ul>	
県			